

大阪市立大 田中 道一
○豊田 錦

1 布地のかさ高性を得るための人造繊維のクリンプの測定を行ない、これらが羊毛、綿などの天然クリンプとの差について研究し、また糸のよりが構成繊維のクリンプに与える影響について研究する。

2. 繊維にクリンプの形態に影響を与えないような小さい初荷重をつるし、その両端をつかんで、投影機によってクリンプを20倍に拡大して投影する。上下のつかみは歯車聯動によって繊維をねじることなくして回転するから、 30° ごとに投影し、これによってクリンプのECD（有効クリンプ径）、EWN（有効クリンプ波数）を測定した。

3. 脂つき羊毛はメリノ64S、同60S、CBK60S、XBD50Sの順にECDは多くなる。これらの羊毛でつくった毛糸からとり出した羊毛についても同じ傾向をえた。ウーリー・ナイロンのECDはウーリー・アクリルより小さいようである。脂つき羊毛のEWNはECDと逆の結果となった。また合成繊維のEWNは一般に羊毛より大きい。またよりによって糸の空隙率は変化するが、これはクリンプのECD、EWNと大きな関係がある。